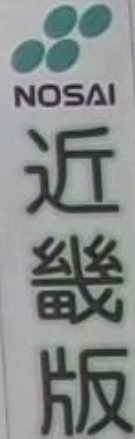




## 農業共済新聞に志穂ちゃん掲載

# 滋賀県甲良町の農事組合法人に就職 夢への一步 踏み出す



【滋賀支局】非農家出身の山本志穂さん(21)は、高校の農業科から農業大学校を経て、この春に地元・甲良町法養寺の農事組合法人サンファーム法養寺に就職した。子供のころに訪れた農業高校主催の農業祭で農業に興味を持ったことがきっかけ。2年後の独立を目指して日々奮闘している。

山本志穂さん



「トマトベリー」のハウスで山本さん。週2回、名古屋のスーパーに出荷する

## ブドウ栽培で独立を目指す

山本さんが働く農事組合法人サンファーム法養寺は、2005年に法人化。現在は山本さんを始め従業員5人が水稲や麦、大豆、施設園芸(トマトベリー、近江キイチゴ)を栽培している。山本さんは他

7年目になった露地イチジクを思い切って切り倒し、ブドウ園に造成し直そうと着手しました。露地イチジクは台風や虫の害によって品質の悪いものが多く、なかなか収益につながらないからです。ブドウが収穫できるまでには3~4年かかると思われますが、他にはない珍しいブドウがとれるよう期待していただきます。

## つぶやき

熊本県庁の要請で集落営農の講演に行ってきました。熊本では日本有数の農業県でありながら今でも個人で農業機械を買いそろえて個人の田んぼを維持されているとのことです。法養寺では23年前から個人では一切の農業機械を買わずに法人の機械だけで農作業をしている話をしました。参加した農家は「うらやましい」「どうすれば集落営農ができるのか」と大変大きな関心を示されました。法養寺の皆さんの協力を得て集落営農が実現できて良かったと思えました。

## 第17回米・食味分析鑑定コンクールに出席しました

11月22日、石川県小松市において「米・食味分析鑑定コンクール」が開催され、甲良集落営農連合協同組合の仲間とともに参加しました。法養寺からコシヒカリとみどり豊を出品して食味値83点と84点とまずまずの成果を得ることができました。田にバイオ炭と家畜糞堆肥を散布するようになってから、食味値はかなり向上してきました。

米を販売するためには他の産地に負けない味を「売り」にしなければなりません。このコンクールに出品するようになって常に80点以上の食味値がえられていますので、「法養寺の米はうまい！」と高く評価いただいています。今年もバイオ炭や家畜糞堆肥を散布し終えて「荒お越し」作業に入っています。